

(続き)

配布状況・結果の報告

お客様への報告の基となる大切な連絡です。

その日の作業状況・結果を必ず実施当日中にメールでご報告ください。

メールの件名、または本文中に必ず「名前」「担当地」「丁目ごとの実配布数」を記してください。

作業終了後、帰社し直接ご報告いただける場合はメールでの報告の必要はありません。

通常を送信先は林のパソコンアドレス、携帯アドレスのどちらでも構いませんが、指示がある場合は指示されたアドレスへ送信してください。

小金井市 浴恩館公園 -あちらこちら世話焼きの散歩道-



小金井市緑町3丁目2番地にある「浴恩館」と呼ばれる建物は小金井市文化財センター(写真左上)として使われていますが、この建物は1928年(昭和3)に京都御所で行われた昭和天皇の即位の御大典で使われた建物を移築したもので武蔵野の深い雑木林の中に静かに建っています。

そばに建つ「稗倉」(写真左下)は、飢饉備蓄のため1781年(天明元年)に稗等の穀物倉庫として当時の名主が村人のために作った、とされています。

当センターでは、野川中洲北遺跡(中町1丁目一帯)から出土した旧石器時代の石器や貫井遺跡(貫井南町3丁目一帯)で発掘された1万年前の縄文時代中期の土器が展示されています。ただ不思議なことに小金井市内では、弥生時代の遺跡は発見されていないとのこと、謎です。

浴恩館には自炊施設も用意されており、ボーイスカウトの活動場所にもなっているようです。紅葉も今から期待できますので、秋の散歩コースに如何でしょうか。



季節の花探訪

菊

誕生は約5千万年前の南米で、種類の多さや分布域の広さから地球上の花をつける植物で最も変化に富んでいると言われている。日本には平安時代に中国から渡来。「菊」の漢字は本来散らばった米を手の中に集めているようすを表したのですが、菊の花弁を米に見立て、多くの花をひとまとめにして、まるくにぎった形をした花、という意味に変化していきました。

日本の秋を象徴する花となったのは、鎌倉時代の後鳥羽上皇が菊の花を「菊紋」として天皇家の家紋としたことによります。

江戸時代前期から広く栽培熱が高まり、育種が進んで多数の品種が生み出され、「菊合わせ」と呼ばれる新花の品評がしばしば行なわれ、丹精の仕方なども発達し、菊花壇、菊人形など様々に仕立てられた菊が観賞されるようになりました。

日本独自の発展をした古典園芸植物の1つとして、現在では「古典菊」と呼ばれています。全般に花型の変化が極めて顕著であるのが特徴で、「江戸菊」には咲き初めから咲き終わりまでの間に、花弁が様々に動いて形を変化させるものすらあります。

花の盛りは11月ですが冬になっても「残菊、晩菊」として咲き続ける強さがあります。野性味の濃い小菊は寒さには強いので冬の「冬菊」、寒気の中で咲いていく「寒菊」として好まれています。

